



COVAX ファシリティを通じてセネガルに供与されたワクチンの授与式



対カーボベルデ債務救済措置に関する交換公文の署名



対ギニアビサウ無償資金協力（平和維持のための強靱な制度構築計画（UNDP 連携））に関する書簡の交換

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

コロナ対策はセネガルでも大きな課題です。冬になって第二波が発生しましたが、現在は情勢が落ち着く傾向にあります。とはいえ油断することなく対策を続けています。

我が国は二国間、多国間の枠組みでセネガルのコロナ対策のため支援を行っています。ワクチンについても、国際的な取組である COVAX ファシリティの枠組みを通じて途上国への供与を進めています。ちなみに我が国は 200 万ドルの拠出を COVAX ファシリティに行っています。

外交活動は遠隔技術を駆使して進めています。最近では、UNIDO 主催の対セネガル投資オンラインセミナー、UN Women と連携した国境管理研修などにオンライン参加しました。

兼轄国とも遠隔手法を活用しながら活動を行っています。

カーボベルデに対する債務救済と水産機材の供与のため、交換公文の署名をダカールで当地のカーボベルデ大使と行いました。プライアと遠隔で通信をつなぎ、担当大臣の列席とスピーチをお願いしました。カーボベルデ向けの食糧援助で届いた米・小麦の供与式も遠隔で実施しました。

ギニアビサウとは、UNDP を通じて平和維持のガバナンス強化案件を実施することになりました。UNDP のギニアビサウ代表がダカールに出張した際に署名を行いました。このときは、ギニアビサウ国民議会のカサマ議長がダカールまで来訪され、式典に出席いただきました。

大人数が集まる行事は自粛しています。例えば、今年の天皇誕生日は、レセプションは開催せずに、オンラインでメッセージを出しました。いくつかのテレビや新聞の取材を受けて、日セネガル関係の説明なども行いました。

これからも万全の対策を施しながら外交活動を進めていきます。